

全国学力・学習状況調査を活用した

授業づくり参考資料

【小学校】



掲載事例

【国語】

- ・書くこと 2 三

伝統工芸品について推薦するちらしを書く

【算数】

- ・データの活用 1(2)

目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現する

【理科】

- ・エネルギー 2(4)

目的に合わせて乾電池2個のつなぎ方を構想する

活用にあたって

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の問題から考えられる「授業づくり」のポイントや、指導の手だての例を掲載しています。子どもたちへの指導の参考例としてご活用ください。

活用のポイント例

自校の状況をもとに考えよう

「1. 問題の概要」を活用して

「出題の趣旨」や「学習指導要領の内容」、「評価の観点」から

「どのような力を身に付けるのか」をつかみましょう。

資質・能力

「正答の条件」や「正答例」から

「どのような姿をめざすのか」をつかみましょう。

「2. 児童・生徒の状況(解答類型抜粋)(質問紙調査)」を活用して

「解答類型」や「経年比較のグラフ」から

「どのような姿なのか」をつかみましょう。

具体的な
児童・生徒の状況

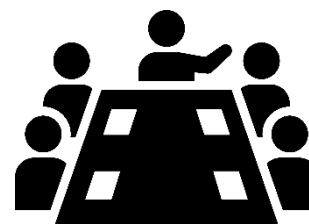
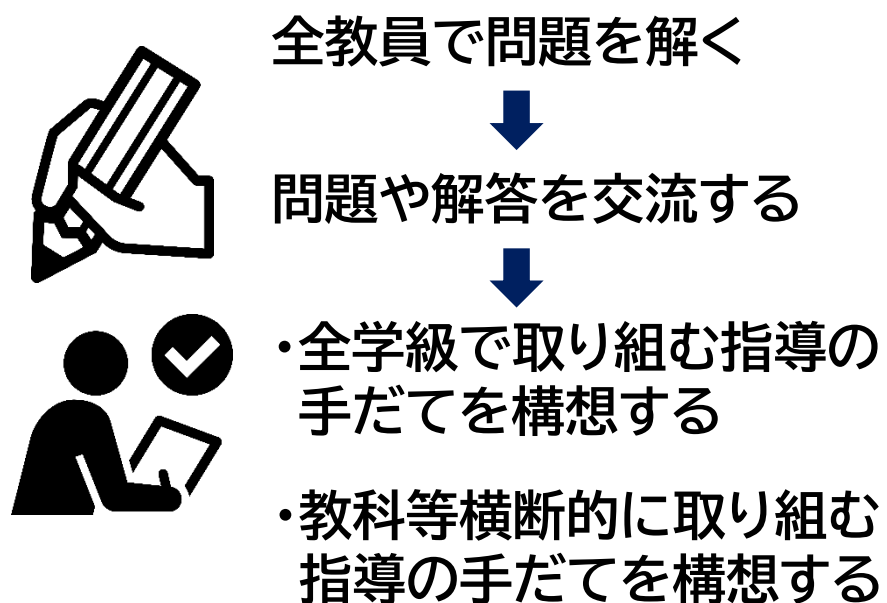
「3. 授業づくりのポイント」を活用して

「授業づくりのポイント例」から

「どのような指導ができるのか」をつかみましょう。

指導の手だて

全国学力・学習状況調査の活用例



自校の解答類型を分析する



子どもの課題を把握する



学校で取り組む重点目標を構想する



解説資料や授業アイデア例を活用した研修をする



授業アイデア例で示された指導を実際に授業で取り入れる

参考

国立教育政策研究所 「教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



複数の情報を整理して考えを、まとめる活動を意図的に取り入れるようにする。その際、他教科等でも活用できる資質・能力が育まれるよう意識することが大切です。

続けて書きましょう。

【小学校算数】 目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現すること。（データの収集とその分析）^①（^②）

（都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く）

1. 問題の概要

出題の趣旨

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

学習指導要領における領域・内容

第3学年 D データの活用(1)ア(イ)・第5学年 D データの活用(1)ア(ア)、(1)イ(ア)

- ・棒グラフの特徴やその用い方を理解すること。
- ・円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。
- ・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。

評価の観点

思考・判断・表現

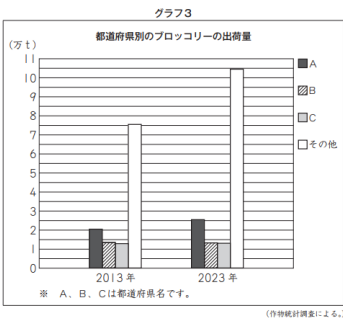
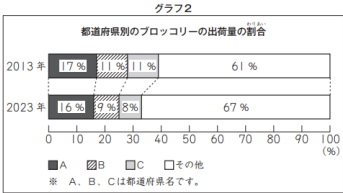
(2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

- ア 2023年は2013年より増えた。
イ 2023年は2013年より減った。



正答(例)

【記号】ア

【わけ】グラフ3を見ると、2013年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2万t、2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2.5万tで2023年のほうが多いです。だから、都道府県Aのブロッコリーの出荷量は増えています。

2. 児童の状況（解答類型抜粋）

記号をアと選び、次の①、②の全てを書いている。
① グラフ3に着目したことを表す言葉
② 2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より多いことを表す言葉や数

	記号	わけ	反応率 (%)
1		①、②の全てを書いているもの	28.6
2		①を書いているもの	21.4
3	アと解答	②を書いているもの	5.4
4		類型1から類型3以外の解答	15.9
5		無解答	2.9
6		都道府県Aのブロッコリーの出荷量の割合について書いているもの	18.1
7	イと解答	類型6以外の解答	4.4
8		無解答	1.3
99		上記以外の解答	1.1
0	無解答		0.9

「2023年は2013年より増えた」と判断できているにも関わらず、判断した理由の説明が不十分(他者に伝わらない説明)になっていると考えられる。

3. 授業づくりのポイント

✓ 目的に応じて、複数の資料から適切な表やグラフを選択するために、様々な表やグラフの特徴を正しく理解させるようにしましょう。

例:「棒グラフは全体的な特徴を捉えやすくする」、「円グラフはデータを分類整理した際の、各項目の割合を捉えやすくする」等、様々な表やグラフの特徴を正しく理解させ、目的に応じて、適切な表やグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉えさせるようにする。

✓ 目的に応じて必要な表やグラフを選択して判断し、その判断の理由について、子どもたちどうして話し合う学習場面を設定しましょう。

例:「表やグラフのどの内容が判断の理由になるのか」等、子どもたちが対話的な学びを通して判断の理由を考えていく活動を通じて、「友だちにもっと伝えるように説明するにはどのように説明すればいいか」等、理解や考えを深めることができるようにする。

✓ 統計的探究プロセスを回す学習活動により、統計的な問題解決活動を充実させましょう。

例:表やグラフに表したデータの特徴から結論について考察する中で、「さらにこんなことを考えてみたい」・「このことについてはどうなっているんだろう」というように、新たな疑問や課題を発見できるようにする。

【小学校理科】 目的に合わせて乾電池2個のつなぎ方を構想する問題(エネルギー領域) 2 (4)

1. 問題の概要

出題の趣旨

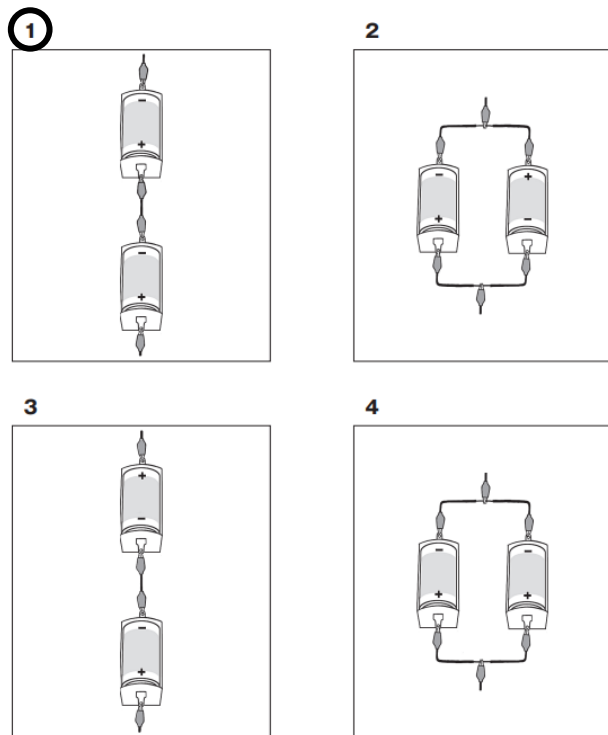
乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる。

学習指導要領の内容 第4学年 A 物質・エネルギー(3)ア(ア)

乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを理解すること。

評価の観点 知識・技能

(1)かん電池 2 個を直列につなぎ、電磁石の強さを最も強くできるのは、どのようなつなぎ方ですか。下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



2. 児童の状況 (解答類型と反応率)

	解答類型	反応率(%)
1	1 と解答しているもの	49.7
2	2 と解答しているもの	30.0
3	3 と解答しているもの	9.1
4	4 と解答しているもの	10.1
99	上記以外の解答	0.2
0	無解答	0.9

ショート回路となって過電流による発熱等の危険があったり、マイナス極どうしを接続することで、電流が流れないつなぎ方になっていたりするなど、回路として成立する条件が理解できていないのではないかな。

3. 授業づくりのポイント

✓ 観察、実験において、安全面、事故防止のための注意喚起を徹底しましょう。

さまざまなつなぎ方を試行錯誤する中で、電流が大きくなる(豆電球が明るくなったりモーターが速く回転したりする)つなぎ方を見いだすことで、乾電池の直列つなぎ、並列つなぎのつなぎ方や特徴を理解する場面ではありますが、教科書でもショート回路にならないよう注意喚起がされています。また、乾電池2個の直列回路で1個を逆向きにつないでも電流は流れませんが、3個以上の場合だと電流が流れ、逆向きにつないだ乾電池に負荷がかかり、液漏れ等に至る恐れがあります。やってはならないつなぎ方を理解することで、日常生活や以降の学習場面で乾電池を使用する際に活用できる生きて働く知識となります。

✓ 「問題解決の活動」を大切にしましょう。

目的意識や見通しをもたせることで、観察や実験を何のために行っているかを明確にしましょう。例えば、電磁石を強くしなければできない課題を設定することで、児童が「電磁石を強くする」という目的に向けて、見通しをもって実験に取り組むことが期待されます。